

# 事業報告概要

## I. ストレス科学研究事業

国内外の著しい社会環境の変化に伴い、職場、家庭、学校において様々なストレス問題が増加しており、ストレスの実態やストレス関連疾患の予防に関する調査研究が急務とされている。

ストレス科学研究事業においては、ストレスに関する大規模な実態調査のためのストレス指標の開発やストレスチェックリストの活用に関する研究並びに健康診査のフィールドを活用した生活習慣指導プログラム介入研究等を実施した。また、健康診査事業、教育・研修・啓発事業、相談事業、広報・出版事業を通じ、調査研究事業の成果を広く国民一般に啓発・普及した。

(1) ストレスに関する調査研究事業

日本人のストレスの指標に関する研究、ストレスチェック票の開発、がん患者及び骨粗鬆症患者のストレスと QOL 研究等

(2) 健康支援に関する調査研究事業

新しい保健指導プログラムの開発、新しいストレスマーカーの開発等

(3) 健康診査事業

過疎地及び離島を含む職域と地域での健診、がん検診、ストレスチェック等

(4) 教育・研修事業

一般を対象としたストレスセミナー・シンポジウムの開催、専門家を対象とした研修会の実施等

(5) 相談事業

面接・電話カウンセリング、保健指導、医療機関での傾聴ボランティア活動支援等

(6) 広報・出版事業

専門家向け学術誌「ストレス科学研究」の発行、一般向け情報誌「ストレスアンドヘルスケア」の発行等

## II. 先端生命医科学研究事業

先端生命医科学研究においては、子どものこころと体の健康確保のため、胎生期の发育環境に関する基礎研究等を実施した。また、がん臨床研究、生活習慣病臨床研究、骨粗鬆症予防研究、ヘルスアウトカムリサーチ、連携臨床研究支援事業の 5 領域の自主研究及び受託研究を主体として、患者一人一人の QOL を尊重した治療選択を目指した臨床研究を支援した。

(1) 先端生命医科学研究事業

胎生期エピジェネティック制御研究

(2) 臨床研究及び臨床研究支援事業・受託研究事業

がん臨床研究支援、生活習慣病臨床研究支援、骨粗鬆症予防研究支援、ヘルスアウトカムリサーチ、連携臨床研究支援事業 等

(3) 教育・研修・啓発事業

乳がん患者対象の研修会、一般及び専門家対象の生命医科学市民講座開催

(4) 広報・出版事業

乳がん患者向けホームページの運営

(5) 倫理審査委員会

生命医科学研究及び臨床研究に関する倫理審査委員会の開催

### Ⅲ. 研究助成事業

ストレス科学及び生命医科学分野における学際的な学術の振興をめざし、研究助成を開始した。基礎研究ならびに臨床研究のテーマについて、公募により、若手研究者（40歳以下）への研究助成を行った。助成期間終了後に成果の発表報告集を刊行する。

(1) 助成テーマ：ストレス科学「ストレスの健康影響とマネジメント」

生命医科学「母子の健康」

(2) 助成期間：2013年9月～2014年3月

(3) 応募件数：121件（ストレス科学研究80件、生命医科学研究41件）

(4) 募集方法：大学病院医療情報ネットワークへの情報掲載、大学・研究機関・学会等にチラシを配布、財団ホームページで申請書を公開し郵送にて受付

(5) 助成件数：10件（ストレス科学6件、生命医科学4件）

(6) 助成金額：総額9,261,490円

(7) 成果の報告：機関誌「ストレス科学研究」およびホームページに掲載

# 事業報告

## 【公益目的事業】

### I. ストレス科学研究事業

#### 1. ストレスに関する調査研究事業

- (1) 日本人のストレス調査（長期研究・新規研究）

現代はストレス社会と言われるが、その実態を把握することは容易ではない。本研究は、日本における地域や職域、世代ごとのストレスの実態を“ストレス指数”として示し、その時系列的変化の把握を容易にすることを目的とする。本年度は、政府等が公表し、今後も継続的に発表され続ける可能性の高い社会指標の抽出と、使用方法の検討を行った。この結果に基づき、次年度以降、ストレスとの関連が想定される社会の実態が反映された社会指標の選定を行い、ストレス指数の仮算出を行う。

研究代表者：青木和夫（日本大学）

- (2) PHRF ストレスチェックリストの活用に関するシステムの構築（中期研究・継続研究）

労働安全衛生法の改正に伴い、健診におけるストレスチェックが義務化されることを見込んだ準備が必要である。そこで、PHRF ストレスチェックリストの価値をより高めるために、予測的妥当性の検討、結果返却や指導内容の標準化、結果返却のシステムの基本設計を目的に、一般住民及び心療内科受診者を対象に PHRF ストレスチェックリスト・ショートフォームを実施し、分析を行った。

研究代表者：今津芳恵（ストレス科学研究所）

- (3) 癌患者のサバイバーシップ支援のための大腸がん患者の心理社会的困難およびニーズに関する研究(中期研究・継続研究)

罹患数の増加や治療法の改善により、がん患者のサバイバーシップ（がんの診断・治療後に暮らしていくこと）への支援の重要性も大きくなっている。しかし、がん患者の生活習慣や心理社会的要因と予後の関連についてはエビデンスが少ない。そこで、本研究では、大腸がん患者を対象に半構造化面接を行い、心理社会的困難やニーズを明らかにするためのデータを収集した。

研究代表者：溝田友里（国立がん研究センター）

- (4) 骨粗鬆症患者のストレス及び QOL に関する研究（中期研究・継続研究）

骨粗しょう症患者は様々な疾患を合併しており、多くの心理社会的問題を抱えていると考えられるが、その実態に関するエビデンスは少ない。そこで、骨粗鬆症患者を対象に、ストレスと疾患特異的な QOL 調査票を用いて骨粗鬆症患者の QOL とストレスとの関連を検討した。

研究代表者：細井孝之（国立長寿医療センター）

#### 2. 健康支援に関する調査研究事業

- (1) 勤労者における腸内細菌とストレスに関する研究（中期研究・継続研究）

腸内細菌と生活習慣病やストレスとの関連についての報告が多く散見される。勤労者のメンタルヘルスと生活習慣病を統合した対策を考えるうえで、腸内細菌は大事な役割を担っていると考えられる。そこで、生活習慣病の発症予防を目的とした腸内細菌への介入研究を企画

する基礎資料を得ることを目的に、勤労者における健診時測定項目、腸内細菌、ストレス、生活習慣等の調査を行い、その関連を検討した。その成果を第 29 回日本ストレス学会学術総会（徳島大学）で発表した。

研究代表者：中西久（健康増進センター パブリック診療所）

(2) 生活習慣指導プログラム介入研究（中期研究・継続研究）

生活リズムと生活習慣病との関連についての報告が増加している。また、これまでの研究から、従来の行動変容中心の指導に加え、睡眠や食事時間に着目した生活リズムやストレスマネジメントに対する介入を検討する必要があることが示唆された。そこで、従来の保健指導に睡眠やストレスマネジメントを加えた新たな保健指導プログラムを作成することを目的に、今年度は、介入指標の検討と介入プログラムの開発を行った。

研究代表者：大橋靖雄（東京大学）

(3) 健診における睡眠調査・ストレス調査の有用性研究（長期研究・継続研究）

これまでの健診データの横断的検討から、生活習慣病の予測因子とストレスとの関連が示唆された。また、これまでに実施した研究から、ストレスや睡眠が生活習慣病の予測因子となる可能性が見られた。そこで、勤労者を対象に、健診における従来の問診項目に、睡眠とストレスの調査項目を加えることで、将来の生活習慣病発症予測が可能かどうかを縦断的に検討する準備を行った。

研究代表者：原田亜紀子（ストレス科学研究所）

(4) 鹿児島県「脳卒中对策プロジェクト」研究事業協力（中期研究・継続研究）

鹿児島県の 5 ヶ年計画である脳卒中プロジェクトにおいて、伊仙町の事業に対して 3 ヶ年目の支援活動を行った。平成 25 年度国保保健指導事業として伊仙町が受託した事業に引き続き協力した。本事業は、重症化予防の対象者抽出および地域での介入体制づくりに関する支援、特定健診データとレセプトデータの分析による積極的な重症化予防に関する健康づくりの支援および平成 23 年度と平成 25 年度の保健指導効果に関する評価を行った。

事業担当者：浜崎伸夫（ストレス科学研究所）

(5) 都市部での健康増進サービスの事業化調査（中期研究・継続研究）

都市部で抱えている健康づくりに関する課題に対して、鹿児島県で行っている科学的手法によるデータ分析及び疫学調査の結果活用などによる対策案を検討し、都市住民の健康づくりに寄与する活動を行った。対象地としては東京都日野市そして神奈川県横須賀市に対し展開し、日野市では一部の活動を受託した。

事業担当者：浜崎伸夫（ストレス科学研究所）

### 3. 健康診査事業

(1) 公益目的事業

1) 住民一般健診及びがん検診（過疎・離島地域含む）

特定健診・特定保健指導に基づく「住民一般健診」及び健康増進法に基づく「がん検診」を実施した。特に北海道支部では、過疎地域に指定を受けた自治体での住民健診にも注力し、21 市町村で成果をあげている。住民健診に於ける「がん検診」は増加傾向(前期比 108%)にあり、その中でも「肺がん検診」の伸び率が 133%と顕著だった。

2) がん検診（職域）

胃部・胸部X線検査、便検査（大腸がん検査）、マンモグラフィー検査(乳がん検査)など、特定健診実施時に合わせて「がん検診」を推進させる側面で、ストレスによる生活習慣病の一つとされている「がん」発症との関係を研究する目的で、ストレスチェックリストを活用した総合的なデータ集積を継続した。職域での「がん検診」は受診者が対前年 132%と大幅な増加傾向が続いている。また血液検査(腫瘍マーカー)は、自己負担となる傾向が強まる中でも増加傾向にある。

### 3) メンタルヘルスケア

産業医を担っている職域については、特定健診・特定保健指導及びメンタルヘルスケアの助言指導あるいは面接指導を継続し、ストレスが心身の健康に与える影響などの研究目的で、データ蓄積を継続するとともに、データ分析や成果など広く還元できるよう、財団内での研究推進体制の整備を行った。心の健康相談室を健康増進統括本部に設置し、関西支部や西日本支部での開設も予定している。

### 4) その他

労働安全衛生法の改正をにらんだ、職域でのメンタルチェックのシステム化検討を開始した。また顧客からの要望の高い、職域におけるメンタルヘルスの一次予防のシステム開発に着手した。特殊健診（有機溶剤・じん肺・石綿等）、行政指導健診（VDT等）件数合計は 46,000 件となった。

## (2) 収益事業

### 1) 一般健康診査

職域は前年比 93% 住民健診は 100%と、職域での一般健診が減少しているが、これは健診巡回効率を重視し採算性・公益性を十分に加味した施策に切り換え、更には品質面の向上を意図とした「無理・ムラ・無駄」の排除を目標に活動をした結果である。

### 2) 学校健診

今期は 18,000 人と前期比 60%と激減した実績となった。これは学童数の減少と共に、受託先を政策的に絞り込んだ結果となっている。

## (3) 業務運営・品質向上面での活動報告

業務運営の体制面では、体制改善・業務環境整備の一環として、健康増進センターの統括機能を 11 月に集約した。現業部門である東京本部と関西支部の環境改善を行った。

品質、専門技術的能力の向上施策面では、4 月に品質アップ及びコスト削減、環境配慮等を目的に、デジタル検診車(新車) 1 台を東京に配車した。

医療職の専門性の向上や情報共有の目的で、常勤医師や放射線技師の専門職会議体を設けた。今後は臨床検査技師・保健師・看護師等専門分野別も対象とする予定である。更に品質(サービス等)の向上を図る目的で、医療サービスの標準化プロジェクトを 9 月に立ち上げた。次期の健診システム開発を目的としたシステムプロジェクトも 9 月に立ち上げた。今後の情報共有や効率的な会議を实践する目的で、全本支部に電子機能付テレビ会議システムを導入した。

平成25年度 健康診断実施件数(受診者数)実績								
本支部名 →		東京	北海道	関西	西日本	計	計	差異
		年間					24年度	差異
①	一般健康診査	158,881	46,808	93,590	44,627	343,906	368,048	-24,142
	雇入時健康診査	1,624	771	2,001	261	4,657	4,306	351
	定期健康診査	153,304	42,002	83,740	42,546	321,592	349,569	-27,977
	A 労働安全衛生法の全項目健診	135,796	26,802	64,326	23,603	250,527	281,894	-31,367
	B 一部項目省略健診	17,508	15,200	19,414	18,943	71,065	67,675	3,390
	深夜業従事者の自発的健康診査	3,806	3,981	7,019	949	15,755	14,035	1,720
	結核健康診査	0	54	97	871	1,022	68	954
	労災保険二次健康診査	0	0	0	0	0	0	0
	その他の一般健康診査	147	0	733	0	880	70	810
②	特殊健康診査	7,568	1,362	7,726	1,813	18,469	31,723	-13,254
	じん肺健康診査	100	201	622	90	1,013	1,335	-322
	石綿健康診査	738	354	239	5	1,336	4,007	-2,671
	有機溶剤健康診査	2,524	532	4,424	1,120	8,600	11,522	-2,922
	鉛健康診査	26	17	56	6	105	1,093	-988
	電離放射線健康診査	959	121	299	159	1,538	5,163	-3,625
	特定化学健康診査	3,221	97	1,659	433	5,410	6,291	-881
	高気圧業務健康診査	0	20	71	0	91	135	-44
	歯科健康診査	0	20	286	0	306	2,175	-1,869
	その他法定の特殊健康診査	0	0	70	0	70	2	68
③	行政指導による健康診査	9,502	2,677	10,301	5,075	27,555	42,209	-14,654
	VDT作業健康診査	8,953	2,191	9,265	5,032	25,441	31,387	-5,946
	騒音障害健康診査	529	27	935	38	1,529	9,375	-7,846
	腰痛健康診査	0	459	0	0	459	847	-388
	振動業務健康診査	0	0	14	0	14	255	-241
	有害光線健康診査	0	0	57	0	57	201	-144
	その他の行政指導による健康診査	20	0	30	5	55	145	-90
a	がん検診(内数)	119,725	39,827	64,035	40,221	263,808	199,325	64,483
	胃がん	32,848	12,792	17,707	8,332	71,679	72,985	-1,306
	大腸がん	40,128	15,423	19,952	9,536	85,039	73,848	11,191
	肺がん	1,841	121	285	486	2,733	3,668	-935
	子宮がん	5,930	1,664	1,808	947	10,349	7,833	2,516
	乳がん(MMG)	1,486	1,358	1,317	138	4,299	2,356	1,943
	乳腺エコー(US)	5,760	923	1,602	1,869	10,154	10,060	94
	腫瘍マーカー	13,948	2,341	13,824	13,412	43,525	28,575	14,950
	腹部エコー(US)	17,784	5,205	7,066	5,501	35,556		35,556
	その他	0	0	474	0	474		474
④	人間ドック等総合健診	0	1,935	0	0	1,935	177	1,758
⑤	THPの健康測定	0	0	0	0	0		0
⑥	職域合計	175,961	52,782	111,617	51,515	391,875	442,157	-50,282
	⑥=(①+②+③+④+⑤)							0
⑦	住民一般健康診査(基本診査)	7,769	10,751	2,282	0	20,802	20,980	-178
⑧	がん検診(法定・外数)	13,097	31,703	7,046	0	51,846	47,764	4,082
	胃がん	3,219	7,093	1,525	0	11,837	11,859	-22
	大腸がん	4,505	8,825	1,832	0	15,162	15,022	140
	肺がん	3,652	8,110	1,890	0	13,652	10,244	3,408
	子宮がん	1,155	2,850	682	0	4,687	5,083	-396
	乳がん	532	3,050	797	0	4,379	5,556	-1,177
	腫瘍マーカー	0	1,585	0	0	1,585		1,585
	その他	34	190	320	0	544		544
⑨	人間ドック等総合健診	0	0	0	0	0		0
⑩	児童・学童・生徒・学生	3,557	2,668	991	11,115	18,331	30,160	-11,829
⑪	住民他合計	24,423	45,122	10,319	11,115	90,979	98,904	-7,925
	⑪=(⑦+⑧+⑨+⑩)							0
b	総合計	200,384	97,904	121,936	62,630	482,854	541,061	-58,207

過疎地・離島健診

		東京	北海道	関西	西日本	計
		年間				
顧客名①	項目					
	定期(A)	0	2,488	42	1,249	3,779
	定期(B)	0	134	22	227	383
	住民一般	0	8,101	2,282	0	10,383
	(その他)	0	5,708	3,353	0	9,061

4. 教育・研修事業

- (1) 傾聴カウンセリング研修会  
 広く一般及び医師や保健師等の専門家を対象に、高齢者や精神疾患患者等への傾聴ボランティアを養成するため、傾聴カウンセリングの研修を実施した。  
 開催日：2013年10月19、26日 参加者：計22名  
 場所：公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター会議室  
 講師：中村延江（桜美林大学大学院）
- (2) 健康教育研修会  
 医師、保健師、管理栄養士、臨床心理士等の専門家を対象に、ストレスやメンタルヘルス、保健指導等に関する研修を行った。  
 開催日：2014年1月16日 参加者：19名  
 場所：公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター会議室  
 講師：村上正人（日本大学板橋病院心療内科・日本大学医学部）  
 猿山敦子（鶯谷健診センター）
- (3) ストレス科学シンポジウム  
 広く一般を対象に、メンタルヘルスの啓発を目的に、ストレスやメンタルヘルスに関する講演会を開催した。  
 開催日：2014年3月9日 テーマ：「うつにならない第4弾」  
 参加者：約300名 場所：早稲田大学国際会議場  
 テーマと講師：  
 「うつ病にならないために～うつ病の理解と対応～」  
 江花昭一（神奈川大学保健管理センター）  
 「うつ病予防のためのセルフケア」  
 西 大輔（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神保健計画研究部）  
 「注意力の訓練でこころをタフに」  
 熊野宏昭（早稲田大学人間科学学術院）  
 座長 村上正人（日本大学板橋病院心療内科・日本大学医学部）
- (4) 健康増進セミナー  
 1) 北海道支部管内での、別海町役場からの委託により、全職員を対象としたストレスセミナーを、6月4・5日の両日で実施した。  
 2) 各支部のある自治体で健康増進セミナー(無料)を11月～12月に実施した。  
 ①2013年11月8日：北海道支部（ノースシティーホテル）  
 「働く人のメンタルヘルス」  
 山本晴義（横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター）  
 ②2013年11月18日：東京本部（トラストシティ カンファレンス丸の内）  
 「職場のメンタルヘルス対策～ストレス評価とその活用」  
 小田切優子（東京医大衛生学公衆衛生教室）  
 ③2013年12月3日：関西支部（つる屋本店 カンファレンスルーム）  
 「職場のメンタルヘルス対策～ストレス評価とその活用」  
 小田切優子（東京医大衛生学公衆衛生教室）  
 ④2013年12月4日：西日本支部(アクロス福岡)  
 「職場のメンタルヘルス - 最近のトピックス」

## 5. 相談事業

### （1）面接カウンセリング

企業従業員及び広く一般を対象として、予約制にて臨床心理士が面接カウンセリングを実施した。

14件

### （2）東日本大震災被災者向け電話相談

2011年3月に発生した東日本大震災の被災者及びその家族を対象に、臨床心理士によるフリーダイヤルでの電話相談を2011年8月より継続実施した。

44件

### （3）傾聴ボランティア活動支援

PHRFヘルスケアカウンセラー資格認定者及び傾聴カウンセリング研修修了者7名による東京都立松沢病院及び東京都健康長寿医療センターでの患者を対象とした傾聴ボランティア活動を2003年度より継続支援した。

## 6. 広報・出版事業

### （1）機関誌「ストレス科学研究」の発行

ストレス科学を研究する専門家を対象にストレス科学に関する最新情報を提供するため、「ストレス科学研究」第28号を発行した。ストレス科学研究を行う若手研究者の研究発表の場を提供するため投稿論文を募集し、14編の論文の投稿を受け付けた。査読の結果、7編の掲載が決定し、4本の特集記事を含めて冊子50部を発行した。また、電子ジャーナルプラットフォーム「J-STAGE」において、冊子掲載論文を公開した。

特集テーマ「脳機能とストレス」

岩木 直：脳活動の計測技術と疲労・ストレス評価への応用の可能性

大平英樹：慢性ストレスと意思決定

福土 審：脳腸相関とストレス

武田典子・内田 直：うつ病運動療法の現状と展望

### （2）情報誌「ストレスアンドヘルスケア」の発行

広く一般を対象にストレスや健康増進に関する情報を提供するため、発行部数2000部で季刊発行を行ない、無料配布した。

夏号巻頭「ストレス科学研究の展望」

秋号巻頭「ストレスと摂食」

冬号巻頭「栄養とメンタルヘルス」

春号巻頭「ストレスと食について」

### （3）ホームページの更新

インターネットを通じて事業活動について広く発信するため、ホームページをリニューアルした。



## II. 先端生命医科学研究事業

### 1. 先端生命医科学研究事業

#### (1) 胎生期エピジェネティック制御研究

アレルギー疾患、発達障害、小児がん・白血病、口蓋裂や二分脊髄等様々な小児疾患が近年漸増している。これらの疾病の傾向は、胎児・乳幼児期から始まっていることが最近解り始めており、これらの原因となる環境要因、遺伝的要因を明らかにすることと、それら2つの要因の相関を明らかにすることが社会的要請である。そこで、小児疾患の病態発生機序を担う環境要因による障害を検証するための基礎研究を行った。その成果として、細胞を標的とする新たな診断や治療法を創出することを目指す。

##### 1) 化学物質曝露マウス新生仔を用いた基礎研究

①子宮内環境変化モデルマウスの作製と解析

##### 2) 研究会の開催

研究代表者：浅野茂隆（早稲田大学）

### 2. 臨床研究及び臨床研究支援事業

#### (1) がん臨床研究支援事業（長期研究・継続研究）

「がん患者の QALY(Quality Adjusted Life Year) 向上のための社会心理的介入を含む治療法開発支援事業（略称：がん臨床研究支援事業）」である。患者の心理社会的ストレスと QOL を、目的別に適切な尺度で測定して、治療がストレスや QOL に及ぼす影響を具体的に明らかにするとともに、臨床研究の主要評価項目である生存期間について、ストレスや QOL が及ぼす影響を検討する。これまでは、乳癌を研究の主要テーマとして事業を推進してきたが、これに加えて数年前より肺癌、頭頸部癌、大腸癌、腎細胞癌等、対象癌腫を広げて研究を進めてきており、対象疾患が多彩化してきている。①手術後の乳がん患者に対する化学療法剤、分子標的薬剤もしくはホルモン剤の再発予防効果と QOL に及ぼす影響を明らかにするための臨床研究は1研究を除いて新規症例登録が終了する。今後は、それぞれの治療観察、後治療情報等の収集が継続して行われる。②転移・再発乳癌を対象とし600余例を集めた大規模比較試験が、解析目標イベント数が確認されたため終結した。今後、国内外の学会発表、論文発表などが行われる。③切除不能の膵癌や腎細胞癌を対象とした化学療法剤、分子標的薬治療後の治療成績、QOL の改善等の情報収集を行う。④がん治療におけるバイオマーカーの研究は、今後の個別化医療における重要な意義がある。大腸癌における KRAS 遺伝子変異を調査すること非小細胞肺癌での EGFRm+を見ることで分子標的薬剤の選択が行われ患者のコスト・QOL の面から検討し、一部論文化や学会発表を進めた。また標準値治療確立のための研究を進めた。④生活習慣（食事・肥満・運動）や相補代替療法を含む支持療法、ストレスやうつ病等が乳がんの発症リスクや QOL に及ぼす影響に関する疫学研究を引き続き実施する。

##### 1) 腋窩リンパ節転移陽性乳がん症例を対象とした術後化学療法ランダム化比較試験：N-SAS BC 02 N-SAS BC : National Surgical Adjuvant Study Breast Cancer

最終解析に基づく論文執筆中。投稿先規定に併せた記載調整のため、若干の遅延が発生した。  
研究代表者：渡辺亨（浜松オンコロジーセンター）

##### 2) ホルモン感受性閉経後乳がん術後補助療法におけるタモキシフェン継続投与とタモキシフェン-アナストロゾール順次投与のランダム化比較試験：N-SAS BC 03

本研究データも含めた EBCTCG による内分泌療法のメタ解析について学会発表の準備を

行った。(ASCO2014)

研究代表者：相原智彦（相原病院）

- 3) ホルモン感受性閉経後乳がん術後補助療法におけるエキセメスタン、アナストロゾール、タモキシフェン投与のランダム化比較試験：N-SAS BC 04

研究代表者：穂積康夫（自治医科大学）

- 4) ホルモン感受性閉経後乳がん術後補助療法の初回治療としてアナストロゾール 5 年間服用した症例を対象としてアナストロゾール 5 年延長の有用性を検討するランダム化比較試験：N-SAS BC 05

2013 年 2 月の International Breast Cancer Congress(St. Gallen)での QOL、関節症状、骨密度に関する発表を行った。論文は、医療経済評価とベースラインデータで作成予定。

研究代表者：岩瀬拓士（癌研有明病院）

- 5) レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験：N-SAS BC 06

2013 年 6 月 10 日をもって登録終了。二次登録で解析必要例数 630 例は確保した。また、計画中の 2 件の Translational research は米国 GHI と調整中。QOL の論文を Breast Cancer Research and Treatment に投稿・採択された。NeoAdjuvant の治療効果に関して 2014 SABCS にて発表予定。

研究代表者：岩田広治（愛知県がんセンター中央病院）

- 6) HER2 陽性の高齢者原発性乳癌に対する術後補助療法に関するトラスツズマブと化学療法併用のランダム化比較試験：N-SAS BC 07

登録期間を 1 年間延長し、実行委員を 6 名追加し、地域毎に症例登録を強化する方針で、10 月以降、毎月の登録症例数が上向きに推移し、年度末までに 213 例を集積した。2014 年 10 月末で、目標症例数 300 例獲得、登録終了を目指している。

研究代表者：澤木正孝（名古屋大学大学院）

- 7) 術前化学療法、原発巣手術施行後、病理学的に腫瘍が残存している乳がん患者を対象にした術後補助療法における Capecitabine 単独療法の検討—第Ⅲ相比較試験—：JBCRG04  
JBCRG：Japan Breast Cancer Research Group

研究代表者：増田慎三（国立病院機構大阪医療センター）

- 8) 治癒切除不能進行・再発大腸癌に対する初回化学療法の治療成績のプール解析による検討研究：EMERALD 研究

中間経過に関して国内外の学会（ESMO，癌治療学会）に発表を行った。

研究代表者：大橋靖雄（東京大学）

- 9) 進行・再発非小細胞肺癌初回化学療法終了後患者の観察研究：SAPPHIRE 研究

中間経過に関してASCOに発表した。

研究代表者：國頭英夫（日赤医療センター病院）

- 10) 根治切除不能または転移性の腎細胞癌患者に対する 1st line TKI 療法不応後のエベロリムスの有効性及び安全性の検討：J-ACTOR

中間経過成績に関して 2014ASCO-GU にてポスター発表を行った。

研究代表者：大園誠一郎（浜松医科大学）

- 11) ペレチノイン第Ⅱ／Ⅲ相試験終了後の予後追跡調査—観察研究(Retrospective cohort 研究)

最終結果を I L C A に発表し、論文化作業中である。

研究代表者：沖田極（社会保険下関厚生病院）

- 12) 切除不能な大腸癌症例におけるセツキシマブを含む一次治療の観察研究:大腸癌分子標的薬研究会

症例登録を 2013 年 6 月末に終了し、現在追跡中である。登録時データを A S C O - G I に発表し、その後の追跡データを癌治療学会に発表の準備をしている。

研究代表者：板橋道朗(東京女子医科大学)・室圭(愛知県がんセンター中央病院)

- 13) 切除不能進行膵癌（局所進行又は転移性）に対する TS-1 通常投与法と TS-1 隔日投与法のランダム化比較試験（膵癌隔日投与研究）

2013 年 8 月で症例登録を終了した。

研究代表者：山上裕機(和歌山県立医科大学)

- 14) E G F R m+を有する進行・再発肺がん治療の観察研究

E G F R - T K I 使用の肺がん患者の P D 後治療に関する研究。2013 年 12 月で 580 例の症例を登録し追跡作業に入っている。登録時データを 2013 年 W C L C に発表した。その後のデータを 2014 年 A S C O で発表する。

研究代表者：國頭英夫（日赤医療センター病院）

## (2) 生活習慣病臨床研究支援事業（中・長期研究・継続研究）

エビデンス発信を目指し、主要な生活習慣病である循環器疾患患者、慢性腎臓病患者、脂質異常症患者等の病態や治療の実態と予後を調査した。患者の予後、心血管（CVD）イベント発現等について、治療様式、併存疾患、ストレスや QOL が及ぼす影響などのリスク要因を検討するために、様々な臨床研究・臨床試験、疫学研究を支援した。

- 1) 高齢者高血圧コホート研究 Sub-study：AI 測定追加調査

研究代表者：大内尉義（元・東京大学、現・虎の門病院院長）

- 2) 重症虚血肢における悪性腫瘍発生率に関する前向き観察研究

全例観察を終了、データの集積、解析を完了した。成果を学会誌に投稿、公表予定。

研究代表者：重松 宏（元・東京医科大学 現・山王病院）

- 3) 冠動脈プラークを有する患者に対するスタチンによる積極的脂質低下療法についての検討：CSP-LD01

全例観察を終了した。データの集積、解析を実施して成果を学会で報告済。

研究代表者：横井宏佳（元・小倉記念病院、現・国際医療福祉大学）

- 4) 高 LDL コレステロール血症を有するハイリスク高齢患者（75 歳以上）に対するエゼチミブの脳心血管イベント発症抑制効果に関する多施設共同無作為化比較試験：EWTOPIA75 試験 CSP-LD08

日本老年医学会との共同研究を継続、症例登録を終了した。全例観察を継続。

研究代表者：大内尉義（元・東京大学、現・虎の門病院院長）

- 5) 冠動脈疾患患者に対するピタバスタチンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験：REAL-CAD CSP-LD09

症例登録を終了した。全例観察を継続。

研究代表者：永井良三（自治医科大学学長）・松崎益徳（山口大学大学院）

(3) ヘルスアウトカムリサーチ(HOR)支援事業 (長期研究・継続研究)

健康関連 QOL や医療経済評価を副次評価項目として実施し、ヘルスアウトカム研究を推進する。CSPOR の SELECT BC、N-SAS BC 05、06、07 において健康関連 QOL などを副次評価項目とし調査研究する。調査終了の研究については、学会発表及び論文公表を行った。また、HOR13 は学会発表及び論文文化を行った。HOR16 は調査を終了し、学会発表及び論文文化を進める。

1) 乳がん患者の QOL・医療経済評価に関する調査研究 (HOR 乳がん委員会で行っている調査研究)

①乳がんホルモン療法施行患者のホルモン関連症状スケールの開発：HOR01 研究

研究代表者：高山智子 (国立がんセンター)

②抗がん剤による末梢神経毒性評価尺度の信頼性検証：HOR07 研究

研究代表者：大住省三 (四国がんセンター)

③乳がん化学療法経験者に対する脱毛等の美容的問題に関する調査研究

研究代表者：渡辺隆紀 (仙台医療センター)

2) 乳がん患者以外の QOL・医療経済評価に関する調査研究

①HOR04 の関連調査、健常者の貧血と QOL についてのコホート研究：HOR04-2 研究  
Tokai J Exp Clin Med に論文掲載。

研究代表者：大橋靖雄 (東京大学)

②肺癌患者における骨転移・骨関連事象に関する調査研究：HOR13 研究

最終解析の実施及び学会発表と論文作成を行う。J Thoracic Oncology に主論文を掲載した。QOL データを ESMO(アムステルダム,9/27:A Prospective Analysis of the Association between Skeletal-related Events and Quality of Life in Patients with Advanced Lung Cancer -CSP-HOR13-)で発表した。

研究代表者：江口研二 (東海大学)

③抗がん剤の神経毒性に関する QOL 研究：HOR16 研究

最終解析の実施及び学会発表と論文作成を行う準備を行った。

研究代表者：島田安博 (国立がんセンター中央病院)

(4) 骨粗鬆症至適療法研究支援事業(長期研究・継続研究)

骨粗鬆症は、一度罹患すると重症化していき、さまざまな日常生活の活動障害につながり、骨折寝たきりを引き起こすことで、今や超高齢化社会において不可避の国民的課題となっている。

このような背景から骨粗鬆症患者の実態把握、診断・治療評価法をはじめ、骨粗鬆症患者の急激な重症化抑制および骨折予防、ADL や QOL に対して最適な治療法を探索する。このために日本骨粗鬆症学会内に組織された骨粗鬆症至適療法研究会(A-TOP 研究会)との連携のもとに調査研究 (JOINT-02、JOINT-03) を継続してガイドラインに反映すべきエビデンスを構築する。また現在進行中の JOINT04 を研究推進する。

1) アレンドロネートと活性型ビタミンD3製剤による大規模ランダム化比較臨床研究:JOINT-02

60 か月長期投与を終了し解析検討中である。新骨折抑制効果評価法 PTE による評価結果を骨粗鬆症学会 Annual meeting にて発表した。

研究代表者：折茂肇 (骨粗鬆症財団)

2) リセドロネートとビタミン K2 製剤による大規模ランダム化比較臨床研究：JOINT-03

エンドポイントデータについて日本骨粗鬆症学会 Annual meeting にて発表した。

研究代表者：折茂肇（骨粗鬆症財団）

- 3) ミノドロネートとラロキシフェンによる大規模ランダム化比較臨床研究：JOINT-04（骨粗鬆症患者におけるミノドロネート水和物の非椎体骨折抑制効果の検証（Nominat）を含む）  
登録目標を 3500 例とし症例登録を継続中である。進捗報告および骨粗鬆症と JOINT-05 栄養調査中間評価を日本骨粗鬆症学会 Annual meeting にて発表した。（女子栄養大 上西一弘）  
研究代表者：折茂肇（骨粗鬆症財団）

(5) 連携臨床研究支援事業（短期研究・継続研究）

上記（1）から（4）に関連する短期的な研究で様々な疫学研究や観察研究を実施した。

1) HPV(Human Papiloma Virus)に関する大規模臨床研究

日本人女性における子宮頸がん及びHPV関連疾患の実態調査を検討する大規模臨床研究を前年度に引き続き行った。今年度は、医療機関受診者より採取した子宮頸部細胞のDNA型別検査によるHPVタイプの同定(J-HERS3)と、尖圭コンジローマ患者を対象としたQOL調査(J-HERS4)の2つの研究を実施し、解析結果の論文化を進めた。

研究代表者：笹川 寿之（金沢医科大学）

2) 女性医療従事者を対象とする子宮頸がん予防に対する意識調査（短期研究）

子宮頸がんは、定期的ながん検診、ワクチン接種により予防できる唯一のがんであり、社会的関心が強まっている。しかしながら、現状では十分な知識が共有されているとは言い難い。そこで、一般女性よりも医学知識や関心が高く、今後の知識普及について重要な役割を果たすと考えられる医療従事者の意識、知識についての現状を知るために本調査を実施し、ホームページにて調査結果を公表した。

研究代表者：入江 琢也（渋谷文化村通りレディースクリニック）

3) 2型糖尿病患者における治療薬の効果の検討

慢性疾患の代表であり国民病である糖尿病について、近年、2型糖尿病の治療薬として画期的な作用機序を有するインクレチンが発売された。しかしながら、発売間もないこともあり、その効果、患者のQOLに与える影響は明らかになっていない。本研究では、既存のスルホニルウレア薬で治療効果が低減した患者へのシタグリプチン切り替えによる効果の検討(研究名STRICT-1)、未介入の患者への同剤の効果、影響(同STRICT-2)を調査した。

研究代表者：荒木 栄一(熊本大学)

4) 重度腎機能障害（末期腎不全を含む）を伴う 2 型糖尿病患者に対するシタグリプチンの有効性と安全性に関する観察研究

シタグリプチン投与が禁忌だった重度腎機能障害患者に対して慎重投与(12.5g 投与)が可能になったが、日本人の重度腎機能障害患者での有効性、安全性についてのデータはない。日本人の重度腎機能障害患者におけるシタグリプチンの有効性、安全性の臨床データ収集することを目的として、本研究を実施した。

研究代表者：西田 健朗（国保水俣市立総合医療センター）

5) 癌化学療法時の悪心嘔吐(CINV)観察研究

癌化学療法時には、高度催吐性及び中等度催吐性抗悪性腫瘍薬投与に起因する急性及び遅発性の消化器症状が問題となる。本研究ではこれらの実態と、制吐療法の実態、さらに、医療者側の CINV に対する予測の精度についても調査を行った。ESMO にて発表を行った。

研究代表者：田村 和夫(福岡大学)他

- 6) 中等度催吐性リスクのがん化学療法に伴う悪心・嘔吐の観察研究  
中等度催吐性化学療法に対して標準的な制吐療法を確立するため、5-HT<sub>3</sub> 受容体拮抗薬とデキサメタゾンの 2 剤併用が行われた場合の悪心・嘔吐の実態について前向き調査を実施した。  
研究代表者：後藤 功一（国立がん研究センター東病院）
- 7) 定期的な治療を受けていない COPD 患者に対するガイドライン標準治療効果の検討  
COPD(慢性閉塞性肺疾患)患者のQOL向上については、早期からの治療が有効であることが大規模臨床試験データで示唆されているが、現在、我が国において、未治療の患者へのガイドラインに基づいた標準治療の効果は明らかになっていない。本研究では、QOLへの影響、アドヒアランスに与える影響を調査した。  
研究代表者：瀬戸口 靖弘(東京医科大学)

(6) 受託研究（中・長期研究・継続研究）

- 1) 転移・再発乳がんに対するタキサン系薬剤とティーエスワンのランダム化比較試験：  
**SELECT BC SELECT BC : Selection of effective chemotherapy**  
イベント数が当初予定の 380 を超えたため、7月時点でカットオフとしてデータ回収し、11月末をもってデータ収集終了とした。解析結果は、当初の目的どおり TS-1 治療が標準治療である Taxane 治療と比べ、全生存期間で劣らないとの結果が得られた。ASCO2014 ではポスター発表となる。  
研究代表者：向井博文(国立がんセンター)  
受託先：大鵬薬品工業株式会社
- 2) 乳がん患者のコホート研究 05、乳がん患者のコホート研究 06、乳がん患者のコホート研究 07  
研究代表者：山本精一郎（国立がん研究センター・がん対策研究班）  
受託先：国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報部・統計部研究班
- 3) 乳酸菌摂取と乳がんの関連性を検討するケース・コントロール研究  
**Current Nutrition and Food Science** に論文掲載。  
研究代表者：戸井雅和（京都大学医学部附属病院）  
受託先：株式会社ヤクルト本社
- 4) TAP-144-SR(3M)の閉経前乳癌患者に対する術後補助療法に関する比較研究 終了後の追跡調査  
研究代表者：紅林淳一（川崎医科大学）  
受託先：武田薬品工業株式会社
- 5) 転移・再発乳がんに対するアンスラサイクリン系薬剤とティーエスワンのランダム化比較試験：**SELECT BC-CONFIRM**  
当初計画の本年 12 月まで、症例登録を継続し、最終、230 例にて登録終了した。観察期間は 2018 年まで継続する予定（イベント数に依存）。  
研究代表者：向井博文（国立がん研究センター東病院）  
受託先：大鵬薬品工業株式会社
- 6) エストロゲン受容体養成 HER2 陰性乳癌に対する S-1 術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験：**POTENT**  
2012 年 2 月の試験開始以降、目標 1400 例に対して順調な症例集積を継続中で、2013 年度

末で登録 986 例。登録予定期間 2015 年 1 月を待たずに 2014 年夏ごろに目標症例数獲得見込み。検出力を上げるために登録症例数を増やす提案が出され検討中である。

研究代表者：戸井雅和（京都大学医学部附属病院）

受託先：大鵬薬品工業株式会社

- 7) E G F R m+を有する進行・再発非小細胞肺癌治療の観察研究  
研究代表者：國頭英夫（三井記念病院）  
受託先：アストラゼネカ株式会社
- 8) イソフラボン・乳酸菌の摂取と前立腺癌発症リスクの関連性を検証する予備的症例対象研究  
研究代表者：伊藤一人（群馬大学大学院院医学系研究科）  
受託先：株式会社ヤクルト本社
- 9) 低リスク前立腺癌患者を対象とした低用量クロルマジノン酢酸エステルのアクティブサーベイランス継続率に対する効果を検討する多施設共同、プラセボ対照、無作為化二重盲検群間比較試験 —PROSAS-Study—：CSPOR-URO01  
2014 年 3 月現在登録症例 2 例である。  
研究代表者：赤座英之 東京大学 先端科学技術研究センター  
受託先：あすか製薬株式会社
- 10) 局所進行頭頸部扁平上皮癌に対する導入化学療法（ドセタキセル＋シスプラチン＋セツキシマブ）と放射線治療及びセツキシマブ併用療法の第 II 相試験(ECRIPS)：CSPOR-HN01  
2014 年 3 月現在登録症例 14 例である。  
研究代表者：全田貞幹/田原 信（国立がん研究センター東病院）  
受託先：ブリストル・マイヤーズ株式会社
- 11) 再発・転移頭頸部扁平上皮癌に対する Paclitaxel + Carboplatin + Cetuximab（PCE）併用療法の第 II 相試験：CSPOR-HN02  
2014 年 3 月現在登録症例 18 例である。  
研究代表者：田原 信（国立がん研究センター東病院）  
受託先：メルクセローノ株式会社
- 12) 日本 CKD コホート（CKD-JAC）研究：慢性腎臓病患者を対象とした疫学研究  
十数本の論文を作成中で、投稿の予定である。  
研究代表者：菱田 明（浜松医科大学内科学）  
受託先：協和発酵キリン株式会社
- 13) 本邦における糖尿病と睡眠時無呼吸症候群に関する疫学研究：JEDAS study  
英語論文を作成、投稿の予定である。  
研究代表者：赤沼安夫（財団法人朝日生命成人病研究所）  
受託先：帝人ファーマ株式会社
- 14) II b 型高脂血症患者に対するフェノフィブラートとエゼミチブの併用療法における臨床効果（EFECTL Study）：CSP-LD07  
全例の観察を終了した。データを解析し、結果を論文化、公表の予定。  
研究代表者：及川眞一（日本医科大学）・山下静也（大阪大学医学部附属病院）・中谷矩章（中谷内科クリニック）  
受託先：あすか製薬株式会社
- 15) 慢性心不全患者を対象とした Adaptive Servo Ventilator に関するレトロスペクティブコホ

ート研究 (SAVIOR-R) : CSP-LD11

論文を **Heart&Vessel** に投稿した。

研究代表者：百村伸一(自治医科大学附属さいたま医療センター)

受託先：帝人ファーマ株式会社

- 16) 慢性心不全患者を対象とした **Adaptive Servo Ventilator** に関するランダム化比較試験 (SAVIOR-C) : CSP-LD12

観察を終了した。データを解析し、結果を論文化、公表の予定。

研究代表者：百村伸一(自治医科大学附属さいたま医療センター)

受託先：帝人ファーマ株式会社

- 17) 潰瘍性大腸炎に対する **B.ブレーベ・ヤクルト株を含む発酵乳とプラセボ飲料とのランダム比較試験(パイロット試験)** : CSP-LD10

症例登録は終了した。観察を継続中。観察終了後、データ解析実施の予定。

研究代表者：日比紀文 (北里研究所病院)

受託先：ヤクルト本社

- 18) 小児アトピー型軽～中等症喘息に対する **SHARP 製プラズマクラスターイオン®発生機とプラセボ機の二重盲検ランダム化比較試験**

研究代表者：勝沼俊雄 (東京慈恵会医科大学付属第三病院)

論文を作成して投稿、公表の準備を行った。

受託先：シャープ株式会社

- 19) 第3期慢性腎臓病を伴う高尿酸血症患者を対象とした**フェブキシostat製剤の腎機能低下抑制効果に関する多施設共同、プラセボ対照、二重盲検、ランダム化並行群間比較試験 (FEATHER Study)**

症例登録は終了した。観察を継続する。

研究代表者：木村健二郎 (聖マリアンナ医科大学)・細谷龍男 (東京慈恵会医科大学)

受託先：帝人ファーマ株式会社

- 20) 酢酸クロルマジノンによる前立腺肥大患者の血中 **PSA 値** に与える影響 : **HOR12 研究**  
最終結果を **Advances in Urology** に掲載した。

研究代表者：平尾佳彦 (奈良県立医科大学)

受託先：あすか製薬株式会社

- 21) ドライアイ患者 **QOL 質問票** 開発に関する臨床研究  
**JAMA Ophthalmol** に掲載した。

研究代表者：ドライアイ研究会

受託先：参天製薬株式会社

- 22) レセプトデータベースを用いた大腿骨骨折幹部骨折発生頻度の検証 : **JOB-01**

研究代表者：細井孝之 (国立長寿医療センター)

受託先：日本イーライリリー株式会社

- 23) テリパラチドと **BIS 剤** の切換え研究企画 2014 年 6 月開始予定 (**JOINT-05**)

新規研究計画案骨子を骨粗鬆症学会 **Annual meeting** においてアナウンスした。

研究代表者：折茂肇 (骨粗鬆症財団)

研究企画委委員長：杉本利嗣 (島根大 1 内)



### 3. 教育・研修事業

#### (1) CSP-HOR (ヘルスアウトカムリサーチ) 研修会

ヘルスアウトカムリサーチ関連の研究発表及び情報提供の場として、一般を対象とし研修会を開催した。

開催日：2013年7月 参加人数：200名

場所：東京大学伊藤国際学術研究センター

講師・テーマ

##### 第1部 日本と諸外国のアウトカム研究の動向

座長：高山智子 (国立がん研究センター がん対策情報センター)

下妻晃二郎 (立命館大学 生命科学部生命医科学科)

五十嵐中 (東京大学大学院 薬学系研究科・薬学部 医薬政策)

福田敬 (国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター)

##### 第2部 アウトカムに関する個人と社会の選択

座長：大橋靖雄 (東京大学大学院医学系研究科)

福田敬 (国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター)

児玉聡 (京都大学大学院 文学研究科・文学部 倫理学専修)

白岩健 (国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター)

大野真司 (国立病院機構 九州がんセンター 臨床研究センター)

本田麻由美 (読売新聞東京本社 編集局社会保障部)

田村誠 (アボットジャパン株式会社 ガバメント・アフェアーズ)

#### (2) 先端生命医学研究所 市民講座「赤ちゃんからお母さんと社会へのメッセージ」

広く一般及び専門家を対象に、健康な子どもを育てることを社会全体で考えるための生命医学の最先端の情報を分かりやすく提供することを目的に市民講座を開催した。

開催日：2014年3月22日(土) 参加人数：188名

場所：早稲田大学国際会議場

講師・テーマ：

「基調講演」

中林正雄 (母子愛育会 総合母子保健センター)

胎児の発育とその障害因子

中山摂子 (母子愛育会愛育病院産婦人科)

胎児・乳幼児の発達と環境要因

板橋家頭夫 (昭和大学小児科)

子どもの成長・発達とその障害因子

三石知左子 (葛飾赤十字産院)

妊産婦・乳幼児の食生活

堤ちはる (子ども家庭総合研究所母子保健研究部)

私を、アトピーにならないように育てて

山本一哉 (母子愛育会愛育病院皮膚科)

児童虐待の現状と対策

水主川純 (聖マリアンナ医科大学産婦人科)

座談会 地域社会の子育て支援

野原理子 (東京女子医科大学公衆衛生学)

#### 4. 広報・出版事業

##### (1) 乳がん情報ネット

乳がん患者及びその家族の不安やストレスの軽減を目的に、webを通じた乳がんの治療等に関する正確な医学情報を提供した。

#### 5. 倫理審査委員会

生命医科学研究に関して開催し、外部からの審査も受託した。5件のプロトコル審査と6件の施設検査の計11件を実施した。

委員長：森眞由美（元東京都保健医療公社多摩北部医療センター）

### Ⅲ. 研究助成事業

ストレス科学及び生命医科学分野における学際的な学術の振興を目指し、基礎研究ならびに臨床研究のテーマについて、公募により、若手研究者への研究助成を行った。

##### (1) 研究助成選考委員会の開催

2013年4月 2013年度「パブリックヘルス科学研究助成金」募集内容の決定

2013年7月 2013年度助成対象研究課題の採択

2013年10月 2014年度「パブリックヘルス科学研究助成金」募集内容の決定

2014年2月 2014年度助成対象研究課題の採択

委員：委員長 下光輝一（東京医科大学名誉教授）

副委員長 青木和夫（日本大学理工学部教授）

大橋靖雄（東京大学大学院医学系研究科教授）

委員 浅野茂隆（東京大学名誉教授）

児玉昌久（早稲田大学名誉教授）

島津明人（東京大学大学院医学系研究科准教授）

長村文孝（東京大学医科学研究所教授）

村岡 功（早稲田大学スポーツ科学学術院教授）

##### (2) 研究の公募と選考委員会

2013年度「パブリックヘルス科学研究助成金」の研究期間は2013年9月～翌年3月の7か月間とし、助成対象者は40歳以下の若手研究者（個人、グループいずれも可）とした。大学や研究機関、学会等へのチラシの配布、学会や助成金に関するポータルサイトへの情報掲載によって、公募情報を周知した。また、財団のホームページで申請書を公開し、郵送にて受け付けた。2013年度募集分に対し121件の応募を受け付け、研究助成選考委員会において選考を行い、選考基準に則り10件の助成対象課題及び助成額（1件あたりの上限は100万、助成総額：9,761,490円）を決定した。

また、2014年度「パブリックヘルス科学研究助成金」の研究期間は2014年4月～翌年3月とし、2013年度と同様の方法で公募情報を周知し、受け付けを行った。2014年度募集分に対し102件の応募を受け付け、研究助成選考委員会において選考を行い、選考基準に則り10件の助成対象課題及び助成額（1件あたりの上限は100万、助成総額：9,995,700円）を決定した。

##### (3) 成果報告

助成期間終了後に成果報告を提出させ、その概要を財団のホームページに掲載する。また、成

果報告会の開催及び成果報告集の発行（ストレス科学研究への掲載）を行い、広く一般及び専門家への結果を公表する。

(4) 採択課題

ストレス科学分野「ストレスの健康影響とマネジメント」（採択数：6件）

桑野 由紀（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部）

末梢血マイクロ RNA を用いたストレスの新しい定量技術の開発

崎本 裕也（山口大学大学院医学系研究科）

PTSD 発症に伴う海馬萎縮の神経メカニズムの解明

田原 優（早稲田大学先進理工学部）

ストレスで概日時計を操る「時間ストレス学」研究

西島 壮（首都大学東京大学院人間健康科学研究科）

身体活動量の低下はストレス脆弱性を高めるか？マウス不活動モデルを用いた行動神経科学的検討

藤澤 隆史（福井大学子どものこころの発達研究センター）

逆境経験へのレジリエンスを規定する要因の発達学的検討

吉田 匡秀（自治医科大学医学部）

レジリエンスの分子機構：プロラクチン放出ホルモンの働き

生命医科学分野「母子の健康」（採択数：4件）

太田 健一（香川大学医学部）

早産児出生前の母体ステロイド投与が児の脳および行動発達に与える影響：脳発達期ラット仔を用いた検討

高橋 隼（和歌山県立医科大学医学部）

母胎内環境が子供の脳の発達と生後の行動および社会性に与える影響－発達障害の予防を目指して－

高柳 友紀（自治医科大学医学部）

幼若期ストレスによる情動障害：オキシトシン－セロトニン神経回路の可塑的変容

横田 知之（神戸大学大学院医学研究科）

子宮内胎児発育不全で出生した児の幼児期の身体発育調査研究～神戸市における大規模調査～

#### IV. 管理運営

(1) 理事会・評議員会開催

理事会・評議員会	開催日
第1回定時評議員会	2013年6月20日
第1回通常理事会	2013年6月20日
第2回理事会(臨時)	2013年12月13日
第2回評議員会(臨時)	2013年12月19日
第3回通常理事会	2014年3月6日

第3回評議員会（臨時）	2014年3月12日
-------------	------------

(2) 監査

監事監査実施 2014年5月28日

外部監査人監査 2013年度会計監査実施 (延べ60人)

	上期実施	下期実施
法人管理 ストレス科学研究事業、臨床 研究支援事業 14日間：延べ31人	2013年8月26日 2013年9月4日 9月5日	2013年10月31日 2013年11月1日、8日、12日 2014年3月27日、28日、 2014年4月1日、17日、 2014年5月24日 27日、28日
健康増進センター 東京 北海道 関西 西日本 16日間：延べ29人	2013年8月27日 2013年9月10日 9月11日	2013年10月21日 22日 2014年2月17日、18日、20日、21日 2014年3月20日 2014年4月1日、17日、18日、22日、30日 2014年5月27日

(3) 事業運営会議(代表理事 業務執行理事 監事)

開催日	主たる内容
2013年7月20日	健康増進が抱える問題点整理と運営方針の検討
2013年10月4日	12月開催予定の理事会・評議員会の議題確認と報告事項整理 健康増進が抱える問題点整理と事業活動方針検討
2013年12月28日	健康増進事業における今後の業務委託スキームの変更と方針決定
2014年2月18日	3月開催予定の理事会・評議員会の議題確認と報告事項整理 健康増進事業のスキーム変更に関する業務委託先との協議(2/4)後の具体的 対応事項検討

(4) その他

①公益財団法人移行祝賀会開催 2013年5月21日 リーガロイヤルホテル東京

②見える化プロジェクト再開(2013年7月～2014年2月まで8回開催)

健康増進事業公益・収益区分検証、権限規程等

③本部事務所 内装工事 2013年8月14日～18日

④新宿税務署調査実施 2013年11月5日～8日 調査官3名

⑤他

■5月より、サイボウズの運用により、スケジュール、会議室予約、  
会議報告、情報掲載。

■職員研修会

入職者研修会、月1回定例ランチョンセミナー実施。

- 臨床研究支援事業に係る標準業務手順書を制定。
- プライバシーマーク認証に関する更新。